

事業所職員向け

児童発達支援自己評価表

記入年月日：令和 6年 3月 30日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点、課題や改善すべき点など
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	6		・施設基準としては、ホップ棟で満たされている。より広い環境での療育が出来る様、法人と園庭やホールを共有している。
	2	職員の配置数は適切であるか	7		
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	6		・自分の物の置き場所が分かりやすい様、視覚的手掛かり(本人のマーク)を使用することで、自分で生活を作りやすい工夫をしている。 ・刺激(視・聴)が多すぎると感じる事が多い時には、ホップ棟、事務所前等静かな空間に移動している。 ・構造化する必要があると考えられるお子さんには、籠を使い見やすくする等、必要な手立てをしている。 ・必要に応じて段差を積極的に利用し、子どもの危機管理能力の向上につなげている。 ・車いす通路として、スロープは使いやすい様、環境を整えてきた。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	4	3	・ホップ棟は床暖房やエアコンを設置し、寒い日、暑い日でも気持ちよく過ごせるようにしている。 ・窓ガラスのよごれているが気になったが、早番・遅番の時間や、月末の大掃除の日に、子どもと一緒に、窓拭きをする時間の工夫をしていく。 ・物置きが少なく、鍵のかかる風呂場を物置きにしていたが、今後は、必要最低限にとどめ、風呂場が使いやすいようにする。 ・テラスのささくれがあり、危険があったり、また、割れものが高所にあった為、安全点検を毎朝行い、安全な環境作りを意識した。テラスについては、こまめに濡れを拭き、木材の劣化を防ぐ。来年度は、テラスの修繕を行う予定。 ・第2ホールの掃き掃除をまめにすることができなかったが、今後は、時間を決めて、声をかけ合って、必ず行うようにしていく。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	6	0	・クラス毎のミーティング・モニタリング会議・ホップ会議でPDCAサイクルを意識して検討してきた。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	7		・毎年3月の茶話会で親さんと振り返りと次年度への説明をしている。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	7		・毎年2月のホップ会議で検討、3月にホームページへ公開している。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	6		・今年度の第3者評価では、中長期計画から年度の計画を立てていく事が弱い、と指摘を受けた為、年度の中ごろに振り返りをし、先を見通していく。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	7		・新入職員には初任者研修、障害特性に応じた療育の研修、虐待防止研修等を行ってきた。
適切な支援	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか	7		
	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	4	1	・アセスメント表を元に、年に1回、面談時に、親さんから聞き取りをし、支援計画に反映させている。 ・「発達の個表」については、内容が難しく分かりづらい為、必ずしも、活用されていない。発達の目安になる物なので、個票の学習会を会議の中でしていき、意味のある物にしていく。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	6		
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	6		・いつでも支援計画が読めるようファイルに保管し、振り返ることができるようになっている。 ・計画されている事が抜けない様、月案ミーティングをシフトの中で決め、複数の職員で話し合っている。
14	活動プログラムの立案をチームで行っているか	7		・定期的に、担当の子どもも個別のミーティングをして、そこで活動プログラムについて話し合っている。 ・もう少し頻回にミーティングをやれるとよいと思う時もあったため、来年度は、ミーティングの時間を増やしていく。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点、課題や改善すべき点など
援 の 提 供	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	6		<ul style="list-style-type: none"> <li>一年を通して季節にあった色々な活動を行って来た。</li> <li>クッキングを行ったり、製作、感覚遊び、体作りなど、多岐にわたる活動に取り組んできた。</li> </ul>
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成しているか	7		<ul style="list-style-type: none"> <li>発達に応じて、時にはクラスを跨いで、個々にあわせた活動を取り入れるよう心がけてきた。</li> </ul>
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	5	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎日は難しかったが、見通しを持って事前に口頭や日案で確認しておいたり、不安がある場合は必ずラインなども用いて再確認してきた。</li> <li>来年度は、できるだけ、前日に打ち合わせをして帰る時間を作っていく。</li> </ul>
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	3	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎日は難しかったが、その都度声をかけたり、必要な時には時間を作ってきた。緊急性のあるものはその日のうちにラインを用いて共有してきた。</li> <li>来年度は、夕方、振り替えられる時間を作っていく。特に新入職員とは、こまめに話し、次の療育につなげて行く。</li> </ul>

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点、課題や改善すべき点など
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	6		・記録は確実にしてきた。感想や行ったことの羅列にとどまらず、PDCAサイクルにのっとれるよう、意識してきたが、十分でない時には、児発管と話し合ってきた。
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか	7		
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	5		・事業所の面談にも相談員さんにも参加して頂き、担当者と児発管・親御さん・相談員で行っている。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか	5		・県障害児等療育支援事業を活用し、STの先生にアドバイスをいただいた。 ・小児科同行し、直接主治医に会って、今後の療育に生かしたり、眼科医への質問書作成等も行って来た。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っているか			・対象となる児童がいない
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えているか			・対象となる児童がいない。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか			・今年度は併用者はいなかった。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	5		
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	4		・2か月に一回、豊川市内の、児童発達支援事業所が集まる共有会議に参加している。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	7		・恵の実保育園と交流保育を行っている。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか		1	・共有会議のメンバーが代表で参加し、内容を共有会議で周知されている。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	7		・子どもの現在の状況に応じて、具体的な対応の仕方や考え方を、連絡ノート、ライン、口頭でアドバイスしてきた。
保護者への説明責任等	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っているか	6		・茶話会・クラス会で相談や学習会をしてきた。 ・母子父子通園や活動の引率にて、お子さんの様子を知ったり、職員との関わり方をみて、子育ての参考にしていた。来年度は、親御さんの仕事との両立に配慮しながら、お迎え前の短い時間を使って母子父子通園を行っていきたい。
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	5	1	・運営規定は親さんには説明していない。利用者負担額については、入所時に、また必要に応じて行っている。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか	5		
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	7		・面談や連絡ノート・茶話会にて。連絡ノートに書かれた悩みには、すぐ返答をするようにしてきた。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	7		・茶話会、クラス会、保護者会・ホップ交流会・秋の親子遠足にて行なっている。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点、課題や改善すべき点など
保護者への説明責任等	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか	7		・相談や申入れがあった時は、上長に相談しながら、早めに対応してきた。 ・ホップ棟奥を「相談室」として利用し、相談があった場合には、お子さんを預かりながら、すぐに対応できるような環境を整えた。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	7		・クラス便り、やまばとだより・療育記録の週案の欄・ラインにて、情報を発信した。
	38	個人情報の取扱いに十分注意しているか	6		・ファイル、お手紙など、個人的な物は、人の目に触れないよう、配慮した。 ・会議で使った資料は回収・処分したり、個人情報は外に持ち出さないよう、意識してきた。
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	6		・連絡ノートを通して、家庭と事業所の情報共有を大事にし、意思疎通のとりにくい子どものサインや体調・想いなどに気づけるようにしてきた。 ・キーパーソンが父の場合は、ラインを通じて父と話すようにしてきた。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	5		・園庭で行われるマルシェで、地域の方とも交流している。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか	6		・法人全体のマニュアル整備を進めつつ、事業所独自でのマニュアル管理を行っていく予定。 ・今年度より「やまばと便り」にて、避難訓練の周知を実施。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	6		・月に一回、避難訓練をして会議などで反省点を話して今後に生かしている。 ・夏の活動前には、海山の安全訓練を、親さんと合同で開催した。 ・救命救急訓練にも、今後参加していきたい。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか	7		・サポートファイルのコピーを頂いて、把握している。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか			・今年度は対象となる児童はいない。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	7		・ヒヤリハット報告書を作成し、再発防止の為の手立てを、上長と一緒に話し合い、決まった事を、会議等で周知している。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	7		・虐待防止委員より、虐待防止に関する情報提供が行われている。それを元に、会議で虐待防止について話し合い、「これって虐待？」など、虐待のヒヤリハットについて話し合う時間が設けられている。 ・虐待防止委員会・身体拘束適正化委員会が、法人内で、定期的で開催されている。 ・虐待防止に関する外部研修に、児発管が参加し、それを、事業所内で共有した。次年度は、児発管以外が外部研修に参加できるようにしていく。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか	7		・会議で話し合い、必要以上に身体拘束を行わないよう改善している(安全が確保できるよう他クラスの職員に援助を頼むなど)。 ・座位保持イスを使用しているお子さんには、食べたり絵を描きやすい姿勢を保つため、と目的を確認し、ベルトを使用している。 ・事業所内で話し合われたことを、法人内の適正化委員会で共有し、検討している。その結果を、事業所内で共有し親御さんに伝えて、支援計画に記載している。